

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年7月20日 第5号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



肉は肉でも

校長 鮫島 弘樹

中学生の好きな食べ物ランキングで、間違いなく上位に入るのが焼肉でしょう。

「焼肉店で」「家で」「バーベキューで」など、暑さに関係なく大人気の焼肉です。サッと程よく焼いたカルビ肉などを熱々のうちにほお張ると、それだけで元気が湧いてくるような気がします。

「牛が暑そうなら、扇風機の風を当てて」「豚が横になって休める広さを確保して」先日、こんな新聞記事が目に残りました。何のことでしょうか？

牛や鶏、豚などは、肉に加工するためなどに畜産農家さんたちが飼育している、いわゆる家畜と呼ばれる動物です。

家畜たちがなるべくストレスを感じなくて済むよう、飼育する際の共通ルールが新たに設けられた、という内容でした。

さらりと読み流すところでしたが、なぜわざわざこのようなルールが作られたのか、ふと気になりました。

かつての畜産業界では、家畜たちがストレスを感じるかどうかなど、あまり問題にされてこなかったようです。

同じ広さなら、満員電車のようにできるだけぎゅうぎゅう詰めで飼育した方が、安く、大量に生産することができます。

しかし、世の中が成熟してくると共に、「人間だけではなく、動物たちにも福祉を」という考え方が広がってきました。

とはいえ、家畜がストレスを感じにくい環境を整えようとする、広い場所を用意したり、新たな施設を建てたりする

など、当然お金がかかります。その分のコストは、価格の上昇として私たちにも影響してくることになります。

「それは勘弁を」と言いたいところですが、こうした考え方は世界共通で広まってきており、よい環境を整えなければ「日本は遅れた国」と言われかねません。

日本の牛肉や果物などは、品質の高さや味の良さから海外でも人気で、様々な農産物が世界に輸出されています。

評価されている分、世界に対しても大きな責任が求められている、といえます。

幸せな気分にさせてくれる焼肉も、その背景にある「食肉の生産や流通」「畜産業界の国際情勢」「食肉産業の歴史」などをたどろうとすると、知らないことだらけで奥の深い世界が開けていました。

これは一つの例に過ぎません。

「血となり肉となる」という慣用句があります。「知識や経験などがしっかりと身について、将来の役に立つようになること」を表しています。

夏休みが始まります。リラックスした時間を過ごしつつ、日頃の学校での学びを土台に「ものを深く知ること」「様々な経験を積むこと」などにも、できるだけ多くの時間を充てて欲しいと思います。

焼肉をモリモリ元気に食べるのもよいのですが、後から振り返った時に「あの活動こそが自分の血となり肉となったんだな」と、成長を実感できるような39日間を過ごして欲しいと願っています。